

# 幼稚園の遊びを通じた英語活動における 総合的な指導についての一考察

横井一之\*

## 1. 研究の目的

初めに幼稚園の指導は遊びを通して行うことを確認する。次に、幼稚園での英語活動の様子を具体的に示す。そして、総合的な指導の意味について具体的に説明を加える。最後に、幼稚園での英語活動の教育課程上の扱いを含めて考察する。

## 2. 遊びを通しての指導について

現行の幼児施設は幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園がある。それぞれ、幼児の指導の方法については表1のように述べられている。

表1 幼児施設における遊びを通じた指導について

<p>幼稚園教育要領 第1章総則 第1 幼稚園教育の基本 2 より (文部科学省2008)</p> <p>幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること。</p> <p>保育所保育指針 第1章総則 ③保育の原理 (2) 保育の方法 オより (厚生労働省2008)</p> <p>子どもが自発的、意欲的に関わられるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすること。特に、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育すること。</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要項 第1章総則 第1 幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本及び目標 1 教育及び保育の基本 (3) より (内閣府等2015)</p> <p>乳幼児期における自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として第2章の第1に示すねらいが総合的に達成されるようにすること。</p>
---

幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領には「遊びを通しての指導を中心として、(略)ねらいが総合的に達成されるようにすること」と書いてある。保育所保育指針には「生活や遊びを通して総合的に保育すること」と書いてある。ただし、生活を通して英語活動を指導する形態は俗に「イマージョン」教育、日本ではインターナショナルと呼ばれる幼稚園(久本福美 2006)になるので、本論文ではこれに触れない。ここでは、英語を用いて遊びながら、3つの要領等に示されている保育内容が総合的に達成されている様子を示す。

遊びを通しての英語活動とは、ある時は誘導したり、ある時は自発的な活動を通して、母語である日本語を用いたり、英語を用いたりして活動し、幼稚園教育要領に示された5領域に渡る種々のねらいを各領域分け隔てなく達成していくものである。

\* 東海学園大学教育学部教授

表2 英語活動の例（年長児）

日時	2016.9.6.Tue	13:55-14:15 (予定)	指導者名 R先生
クラス	ゆり 5 歳児	窓際：鉢植え植物	在籍 26人
担任	T先生	子どもの姿	活動のねらい
		給食を食べた後、R先生の登場を担任の先生や友達と一緒に楽しみに待つ。	英語の先生と遊ぶ。 英語の先生の言葉を聞く。真似て話す。 友だちと一緒に体を動かし遊ぶ。 友だちと確認しながら楽しく行動する。
時刻	環境構成	子どもの活動	援助
14:02	CD	Hellow song を先生と一緒に歌う。	声掛け holiday はどうしていた。 Swimming? Hello-Hello. スキンシップ Mゆうき君（先生の言葉を友だちに通訳する） No punch. 注意 A head. Heads. A shoulder. Shoulders. A knee, Knees. An eye. Eyes. A nose. Noses. An eye. Eyes. 最後、なかよしという。 It's a head. They are heads. Clap your hands. Touch your head. もう一度繰り返す。 No more time. (もう終わり) Touch our eyes. 迷っている子ども 4 割 Sit Down. Jump. S J J J Stop を繰り返す。 Clap your hands. Clap your hands. Jump. を繰り返す。 Clap your hands. Touch your Head. を繰り返す。 Clap your hands. Sit down. を繰り返す。 Touch your head. と言い、揺さぶる。 Jamp & Touch your head. T (担任) 先生に chichi. と言う。 Rに chichi という。 Make a line. 女兒泣く ゆうき君が手をたたいたの だよと先生に伝える他の男子 Go Under 注意 NO LIftUp. 股の下で止まる子ども。いろいろちよっかいです。 Sit Down. How many ears do you have? 2 ears. How many eyes do you have? 3eyes. 1,2,3 笑い。 How many Head hairs do you have? 棒でなぐる。真似。Are you Ok? Yeah, I'm Ok. Tangue Twister の話をする。P P P P P CDに合わせ、別れの挨拶をする。
14:12	絵 うさぎ	絵を見て、R先生に続いて復唱する。  先生に続いて復唱する。 手をたたく。 頭を手で触る。 One more time. (もっとやろうという) One more time. (さらに、やろうという)  座る、ジャンプ、座る、ジャンプを繰り返す。 手をたたく。 手をたたく、ジャンプを繰り返す。  座る動作を入れる。  子どもは、担任の先生に近寄りチチと突く。 子どもは、R先生に近寄りチチと突く。 一列に並ぶ	
14:25	絵カード CD、さよならの歌	R先生の股の下をくぐる。  R先生の質問に答える。 R先生と、目の数を数える。3つ目の目が、 頭の上にあると言われて笑う。 数えて、たくさんあることを知る。Many, many. R先生が子どもに問うが、Not Okとは言わない。  R先生に Thank you. と挨拶する。	

### 3. 幼稚園の英語活動の実際

ここでは、遊びを通した英語活動の実際を示す。

(1) 活動日時 2016年9月6日(火) 午前～午後

(2) 活動幼稚園クラス

G県T市H幼稚園 年少2クラス各23名各15分  
 年中2クラス各30名各15分  
 年長2クラス各26名各20分

### (3) 展開例

展開例は表2のようである。

### (4) 重点の活動

年少・年中児は15分、年長児は20分の指導である。その内容は、各クラスほぼ同じで、年長ほど繰り返しを十分に行うことができ、時間が長くなる。

重点の活動を3つ取り上げ、その様子を学年ごとに簡単にまとめる。

表3 Clap your hands.の年齢別活動の差異について

3歳児	なんとか手拍子をすることができる。
4歳児	きちんと2回ずつ手拍子をすることができる。
5歳児	横に歩いたりしながら2回ずつ手拍子することができる。

手をたたいているが、3歳児は周りの子どもがたたくので、一緒にたたいているようである。4歳児は、先生の言葉を聞いて、それに従って手拍子をしている。5歳児は、先生の言葉を待って、手拍子をすることができる。複合的に、立って、ジャンプ、手を頭へ、などの指示に対して的確に対応することができる。

表4 A head. Heads.の復唱に対する年齢的活動の差異について

3歳児	なんとなくはっきりしない発音をする。
4歳児	大きな声で発音することができる。
5歳児	意味を理解したうえで、発音することができている。

R先生は派遣会社のシンボルマークであるウサギの姿をB4版画用紙大に印刷して子ども達に提示した。そして、全ての年齢の子どもにA head.Heads.と単数形と複数形の発音を示し、子どもに復唱するように促し、子どもの発声を待ったが、あまり反応はよくなかった。子どもの反応とは関係なく、すべてのウサギの部位について発音を示し、この課題は終了した。年長ほど復唱の声は大きかったが、子どもが単数形、複数形を意識していたかどうか疑問が残った。ただし、理解できないものをあまり追求せず、そのまま流れ去ることは子どもの生活においては珍しいことではないため、子どもはあまり気にしていないようだった。逆に言えば、周りの中から興味をもったことに深く関わろうとするのは、子どもの特徴である。

表5 Go Under (股くぐり)に対する年齢的活動の差異について

3歳児	2割ぐらいの子どもが、活動について行けず、ロッカーの傍で立って友達の動きを眺めている。股をくぐった子どもは、そのまま這っている。
4歳児	R先生の股をくぐった後は、立ち上がり、友だちの後を付いていく。
5歳児	順番をきちんと待ち、順序良くR先生の股をくぐる。くぐり終わると、立ち上がり、列の最後尾に並ぶことができる。

この活動に入る前に、一列に並ぶ時Make a Line.とR先生は声を掛けていた。日本の幼稚園だと「前へならえ」「まあえ、まあえ」ということだ。この姿は、日本語で「股の下をくぐって」と指示した場合と、子どもの様子はまったく同じであった。3歳児はあまり英語の意味が理解できないまま行動し、4歳児は友達の様子を見ながら行動し、5歳児は英語の意味をほぼ理解し行動していた。

## 4. 総合的な指導について

「総合的な」の意味は、1つの活動に保育内容5領域の指導内容がいろいろと含まれているということである。

英語活動が幼稚園の教育課程上どこに位置付けられるかということを考える時は、どの領域の内容が指導されているかを捉えなければならない。今回の英語活動を通して、具体的にどのような指導が総合的になされているか示したい。

表6 英語活動の各領域の指導内容

領域名	活動内容	指 導 内 容
健康	安定した息 股くぐり	大きく息をして声を出す身体を作る。 身体をかがめる。(柔軟性)
人間関係	一緒に発声 股くぐり	友だちの声を聞いて、自分も発声する。 相手の存在を意識して、距離を保つ。
環境	声への興味	言葉の働き。人に伝える。高い声。低い声。
言葉	会話	言葉の役目について知る。 息の出し方。口、声帯、喉の使い方。 高い音、低い音の出し方。
表現	音や体の表現	手をたたくといって、手を2回たたく。その響きの表現。

実際に行った活動を5領域の指導内容に分類する作業をすると、学生から「これはこじつけではないか?」という質問が必ず出る。高校まで教科の枠で授業を受けてきた学生にとって、先に5領域の指導内容があり、それにしたがって活動内容を決定していくという保育の展開を考えようとすることは十分理解できる。しかし、幼稚園教育の場合は、活動である遊びが先に来る。その活動を通して、5領域のねらいがそれぞれ達成されていくということである。このことが、幼児の活動は総合的であるということである。

## 5. 考察

幼稚園や保育所で子どもと一緒に遊んでいると、簡単な英語を耳にすることがある。ごく普通に用いられている例をあげれば「先生、きのうディズニーランドへ行ってきた。」というものである。遊びを通して英語を指導するということは、遊ぶ中で英語を用いて保育し、幼稚園教育要領に書かれている保育のねらい、内容を達成するということである。ただし、幼稚園や保育所には「外国語(英語)を身に付ける」という、外国語(英語)獲得についてのねらい、保育内容は無い。具体的に達成する内容は、表6のように5領域の内容となる。逆の言い方をすれば、英語を用いて活動していても、日本語を用いて活動していたのと同じねらいを達成することができるといえる。

表1の保育所保育指針には「生活や遊びを通して総合的に保育すること」とある。この「生活を通して総合的に保育すること」について考えてみたい。生活を通して英語活動をするということは、生活に母語である日本語ではなく英語を用いて活動するということである。「理解優先の教授法のひとつで、小学校以上では外国語を教えるのではなく、いろいろな教科を外国語で教えること」(白井恭弘 2012)をイマージョン教育と呼ぶ。日本にいながら英語でイマージョン教育をする幼稚園がある。インターナショナル幼稚園と呼ばれている。インターナショナル幼稚園は、もともとは日本に在住しいずれ英語圏に戻る子弟のための幼稚園であった。しかし、昨今は日本語が母語でありながら英語環境で幼児期を過ごし、イマージョン教育を施すためにこの幼稚園へ通う子どもがいる。イマージョン教育と言語獲得の臨界期(バト



ラー後藤裕子 2015) との関係や、使用言語と生活言語のずれが原因で情緒が安定しないことなど、よく分かっていないところもあり、今後の研究が待たれる。

英語活動に対する年齢ごとの違いを3つの事例で示した。表3に示したのは「手をたたく」活動の差異についてまとめたものである。3歳児の場合、英語の指示の意味を理解し行動していることは少なく、周りの子どもが手をたたくために、自分も手をたたいていることが多い。言葉の指示に従い、自分で判断して手をたたけるようになるのは4歳になってからである。「立って。手をたたいて。ジャンプして。手で頭を触る。」と指示が連続して変化しても、5歳児は自分で聞いて、判断して行動できる。英語を聞き分けないとこのように遊ぶことはできない。この遊びは、子どもの英語を聞く力を養うことはもちろんだが、子どもの音への注意力を高めると考えられる。

表4には、英語独特の単数と複数の発音の発達による差異を示したが、4歳以下の子どもにとって、その意味を理解することが難しく、あまり深く追求しても教育効果のない遊びだと思った。

表5にGo Under（股くぐり）の活動の発達による取り組みの差異を示した。3歳児は歩く能力が十分に備わっていないので、一度這って股をくぐる行動をすると、障害物としての股がなくなっても、這い続けていた。もちろん、Go Underという言葉も3歳児でも十分理解していた。4歳になると、這うことと歩くことをきちんと区別して行動できることが分かった。5歳になると、Go Underが一つの活動として定着しており、順番にスタートラインに並び、R先生の股をくぐったらすぐに立ち上がり、仲間の列の最後尾にもどり、次の活動に備えることができるようになっている。このような発達による遊びの形態の変化は、日本語を用いなくても、英語を用いても遊びの指示は伝わり、その指示に従い、遊びのルールにより、それぞれの発達に応じた遊びが成り立つことを意味している。英語活動を用いた遊びを通してでも日本における幼稚園教育のねらいは達成が可能だということである。

H幼稚園では、英語活動のほかに、外部講師により体育指導、絵画指導、剣道、水泳指導を行っている。どの活動も幼児期に経験させたいものである。成人とほぼ同様な活動ができるようになるのは5歳児からである。それ以前の幼児は前概念期と呼ぶように精神的には独特の考え方をし、身体も体幹に対して四肢が相対的に短くいわゆる幼児体型である。この時期に、英語活動を含めいろいろな体験をすることは、将来いろいろなことに興味関心、知的好奇心を向けていく幼児にとってとても意義があることである。教える内容そのものの定着をはかるよりは、学びの姿勢、学びの態度を身に付ける時期だといえる。英語活動でいえば、言葉は日本語のみでなく英語という外国語もあり、あらゆる言葉というものは世の中の役に立つものであると感じることが大切である。高校生、大学生でもまだまだ発達途中であり、ましてや幼児は発達を始めたばかりの時期である。したがって、この時期の幼稚園教育のねらいは、限定的な表現でなく5領域で発展的に表現されている。その内容が英語活動のみでなく、前述した体育指導、絵画指導においても、総合的に達成されていくのである。

2018年度に外国語活動が小学校3年から始まる。今までは5年から始めていたため、2年早くなる。履修年齢が幼児期とは不連続であるため、小学校の英語教育開始時期と幼稚園の英語活動とは直接は関係がないと考えている。

幼稚園の英語活動に限らず、幼児期に経験するとよい活動について今後も研究を深めていきたい。

## <参考文献>

- 岡本夏木 (1982) 『子どもとことば』 岩波書店  
 厚生労働省 (2008) 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館  
 酒井邦嘉 (2002) 『言語の脳科学』 中央公論新社  
 白井恭弘 (2012) 『英語教師のための第二言語習得論入門』 大修館書店

高良聖（1996）『警告！早期教育が危ない』日本評論社

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2015）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館

バトラー後藤裕子（2015）『英語学習は早いほど良いのか』岩波書店

久本福美（2006）『行かせちゃったよ，インターナショナルプリスクール』文芸社

正高信男（1993）『0歳児がことばを獲得するとき』中央公論新社

無藤隆（1998）『早期教育を考える』日本放送出版協会

文部科学省（2008）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

横井一之（2015）『幼児期の英語教育について—早期教育，幼小連携から考える—』

渋谷和郎・野村忠央・土井 峻『英語と文学，教育の視座』180-190，DTP出版